

5.

国際研究ネットワーク

2015 年度

国際研究ネットワーク構築概要

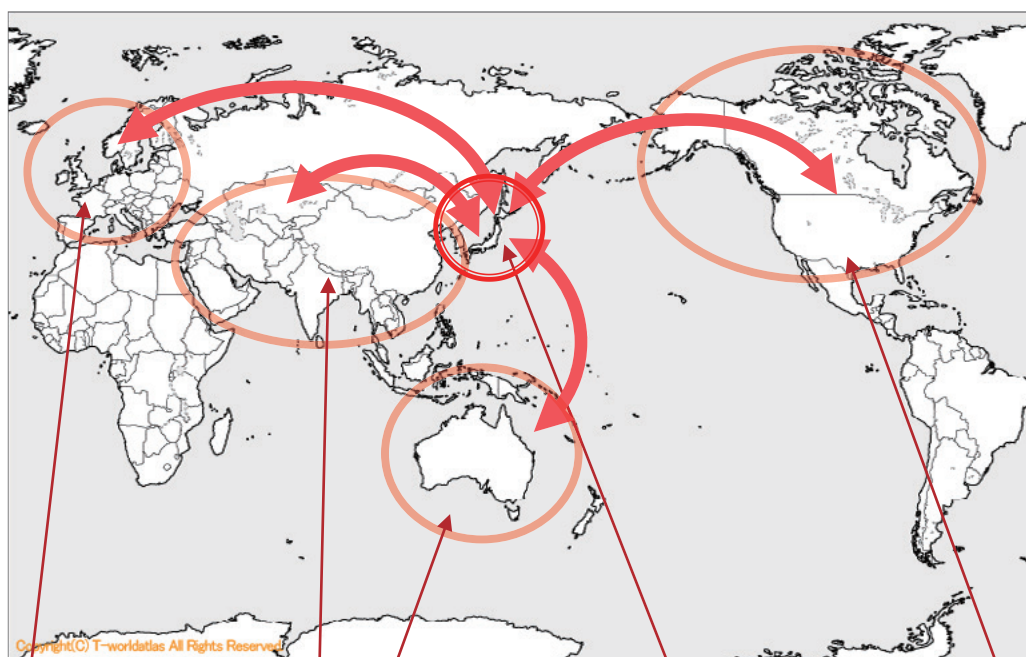
- 1) 国際的な共同研究・研究交流
- 2) フェローシップ受入

2015 年度国際研究ネットワーク構築概要

5 カ国、10 箇所の研究機関との国際研究・交流ネットワーク

ジェンダー研究所は日本のジェンダー研究のハブとして、国内・海外の研究機関及び研究者らと広くネットワークを構築し、共同研究にも積極的に取り組んでいる。2015 年は、アジア、ヨーロッパ、アメリカの 5 カ国、10 箇所の研究機関及び研究チームと研究交流を行った。また、フェローシップを獲得して来日する、海外の若手研究者の受入も行っている。共同研究の成果は、国際シンポジウムや出版物を通じて広く社会に還元していきたい。

ジェンダー研究所を拠点とする国際ジェンダー研究ネットワークイメージ



ヨーロッパ	アジア・オセアニア	日本国内	北米
ストラスブール大学 アルザス・欧州日本学研究所 パリ第 2 大学パリ政治学院 European Consortium for Political Research 《招聘研究者》 クレア・アネスリー (サセックス大学・英) スーザン・ヒメルヴァイト (オープン大学・英) サイモン・モハン (ロンドン大学クイーン・メア リー・英) マリー・ピコーネ (社会科学高等研究院・仏) 《受入フェロー》 アメリ・コーベル (パリ政治学院・仏)	韓国ジェンダー政治研究所 ソウル大学日本研究所 ソウル大学政治外交学部 ソウル大学アメリカ研究所 光云大学国際学部 台湾国立大学女性学研究プ ログラム アジア工科大学院大学(AIT) 《招聘研究者》 李珍玉(西江大学・韓国) 黄長玲(国立台湾大学・台湾) アリア・アサリ (アン＝ナジャーフ大学・パ レスチナ) キャサリン・ミルズ (モナシュ大学・オーストラリア)	ジェンダー関連学協会コンソ ーシアム 「フェミニスト経済学」研究会 GDRep 研究会 《招聘研究者》 伊田久美子(大阪府立大学) 伊藤誠(東京大学) 上野千鶴子(立命館大学／ 東京大学) 大山礼子(駒澤大学) 加藤恵津子(国際基督教大学) 熊田陽子(学振特別研究員 SPD／首都大学東京) 定松文(恵泉女学園大学) 新々江章友(大阪市立大学) スティール若希(東京大学) 柘植あづみ(明治学院大学) 松岡悦子(奈良女子大学) 三浦まり(上智大学)	スタンフォード大学 日米女性政治学者シンポジウム 《招聘研究者》 スーザン・フランセスカ (カルガリー大学・カナダ) アン・ウォルソール (カリフォルニア大学アーバ イン校・米) モナ・リナ・クルック (ラトガース大学・米) キャロル・セロン (カリフォルニア大学アーバ イン校・米) 《受入フェロー》 ユン ジソ(カンザス大学・米)

1) 国際的な共同研究・研究交流

■ 国際的な共同研究・研究交流等

【アジア・オセアニア】

- 韓国 韓国ジェンダー政治研究所

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

- ・研究委員就任、フェミニスト制度主義について研究会実施。

- 韓国 ソウル大学日本研究所

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

- ・学術雑誌『日本批評』海外編集委員
- ・『日本批評』特集号『東アジアの中の在日コリアン：ディアスポラを超えて』ゲストエディター及び同テーマの国際シンポジウムの企画。
- ・共同研究プロジェクト『思想と言説』共同研究員

- 韓国 ソウル大学政治外交学部

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

- ・Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」
東アジアの国際関係理論構築研究、ジェンダー、日本地域担当。

- 韓国 ソウル大学アメリカ研究所

【担当】臺丸谷美幸（IGS 特任リサーチフェロー）

- ・9月23日 同研究所を訪問。チョ・チョルオン所長、チョン・サンジュン教授、イ・ドンシン准教授と研究交流、意見交換。

- 韓国 光云大学国際学部

【担当】臺丸谷美幸（IGS 特任リサーチフェロー）

- ・9月22日 同大学同学部にて講義を実施。

- 台湾 台湾国立大学女性学研究プログラム

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

- ・「台湾大学女性学研究プログラム創立 30 年記念国際シンポジウム」にて「お茶の水女子大学ジェンダー研究センター」について報告、アジア諸国のジェンダー研究プログラムについて情報共有。

- タイ アジア工科大学院大学（AIT）環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻

【担当】日下部京子（AIT 教授）、足立眞理子（IGS 教授）、申琪榮（IGS 准教授）、
板井広明（IGS 特任講師）

- ・AIT ワークショップの実施

【ヨーロッパ】

○ European Consortium for Political Research

【担当】 申琪榮（IGS 准教授）

- ・機関メンバーシップ。本学関係者は ECPR 主催学会等の参加費割引、各種電子リソースへのオンラインアクセスなどの特典がある。

○ フランス ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科、アルザス・欧州日本学研究所

【担当】 足立真理子（IGS 教授）、サンドラ・シャール（ストラスブール大学）

- ・国際シンポジウム『日本におけるモダン文化の諸相：伝統・混合・イノベーション「モダン再考：戦間期日本の都市・身体・ジェンダー」』をストラスブール大学で開催。
- ・共同研究成果を単行本にて刊行（フランス語版）。

○ フランス ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科

【担当】 足立真理子（IGS 教授）

- ・ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科サンドラ・シャール氏（講師）訪問（2015 年 7 月）、2017 年 3 月の国際シンポジウムについて協議。

○ フランス パリ第 2 大学パリ政治学院

【担当】 板井広明（IGS 特任講師）

- ・「ナッジ・プロジェクト」責任者の一人であるアン・ブルノン教授との「ナッジ」に関する共同研究

【北米】

○ アメリカ スタンフォード大学

【担当】 仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

- ・クレイマン研究所(ジェンダー研究所)において進められている研究プロジェクトについて情報入手

■ 国内外関連研究会・連携研究等

○ 「フェミニスト経済学」研究会

〈コーディネーター〉 足立真理子（IGS 教授）、伊田久美子（大阪府立大学教授）

○ 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会（Gender, Diversity and Representation（GDRep））

〈コーディネーター〉 申琪榮（IGS 准教授）

〈メンバー〉 三浦まり（上智大学教授）、スティール若希（東京大学准教授）

- ・セミナー・シリーズ「政党行動と政治制度セミナーシリーズ」実施

○ 国内の女性学・ジェンダー研究センターとのネットワーク

- ・ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加 ほか

○ 日米女性政治学者シンポジウム（Japan-America Women Political Scientists Symposium (JAWS)）

【担当】 申琪榮（IGS 准教授）、田中洋美（明治大学准教授）、武田宏子（名古屋大学教授）

岩本美砂子（三重大大学教授）、メリッサ・デックマン（ワシントンカレッジ教授）、

ジュリー・ドーラン（マカレスター大学教授）、マリアン・パリー（デラウェア大学名誉教授）ほか

- ・日米女性研究者ネットワーク

■2015 年度招聘研究者

【アジア・オセアニア】

李珍玉（西江大学・韓国）
黄長玲（国立台湾大学・台湾）
アリア・アサリ（アン＝ナジャーフ大学・パレスチナ）
キャサリン・ミルズ（モナシュ大学・オーストラリア）

【ヨーロッパ】

クレア・アネスリー（サセックス大学・イギリス）
スーザン・ヒメルヴァイト（オープン大学・イギリス）
サイモン・モハン（ロンドン大学クイーン・メアリー・イギリス）
マリー・ピコーネ（社会科学高等研究院・フランス）

【北米】

スーザン・フランセスカ（カルガリー大学・カナダ）
アン・ウォルソール（カリフォルニア大学アーバイン校・アメリカ）
モナ・リナ・クルック（ラトガース大学・アメリカ）
キャロル・セロン（カリフォルニア大学アーバイン校・アメリカ）

【日本国内】

伊田久美子（大阪府立大学）
伊藤誠（東京大学）
上野千鶴子（立命館大学／東京大学）
大山礼子（駒澤大学）
加藤恵津子（国際基督教大学）
熊田陽子（日本学術振興会特別研究員 SPD／首都大学東京）
定松文（恵泉女学園大学）
新ヶ江章友（大阪市立大学）
スティー爾若希（東京大学）
柘植あづみ（明治学院大学）
松岡悦子（奈良女子大学）
三浦まり（上智大学）

2) フェローシップ受入

○ 日本学術振興会外国人特別研究員

ユン ジソ (カンザス大学準教授)

【受入担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【受入期間】 2015 (平成 27) 年 8 月 10 日～2017 (平成 29) 年 8 月 9 日

【研究テーマ】 日本の地方政治における女性の政治的代表的性の研究

IGS に来た動機、研究テーマ、2015 年の研究成果、2016 年にむけての抱負

東アジアの女性と政治参加に興味があり 2015 年 8 月から 2 年間、日本学術振興会外国人特別研究員として来日し、お茶の水女子大学において、日韓の比較研究を行っている。お茶の水大学 IGS は、日本におけるジェンダー研究の最高峰であり、こちらに所属しながら研究することになった。主な研究テーマは、クオータ制度が行なわれている韓国と行われていない日本を比較し、女性の政治参加を拡大するために導入された制度が、女性の政治的代表的性や意識改革にどのような影響を与えるのかを分析することである。

2015 年には、日本語文献を収集、国内の専門家らと研究交流を行った。さらに東京都議会に注目し、2000 年代以来の東京都議会の選挙結果、本会議・委員会会議の政策発言を分析した。具体的に、地方議会で議論されている女性利益・政策はなにか、誰が議会でそのような利益・政策を代弁するのかを研究した。2016 年にむけての研究課題は、韓国のソウル市議会と日本の東京都議会との比較を通じ、比較研究を深めていきたいと思っている。

○ 国際交流基金日本研究フェローシップ

アメリ・コーベル (パリ政治学院)

【受入担当】 足立真理子 (IGS 教授)

【受入期間】 2015 (平成 27) 年 7 月 1 日～2016 (平成 28) 年 4 月 30 日

【研究テーマ】 日本における国際結婚：政治学の視点から

IGS に来た動機、研究テーマ、2015 年の研究成果、2016 年にむけての抱負

IGS に来た動機は、ジェンダー研究が専門で、日本の事情に詳しい教授の下で研究するためでした。2011 年に、一橋大学の伊藤るり先生の下で研究させていただいた際に IGS のことを知り、次の留学先はお茶の水女子大学の IGS と決めていました。

博士論文では、外国籍配偶者の呼び寄せに関する諸規定に焦点を当て、ジェンダーバイアスを検討しています。先行研究で示されたように、政策に明らかな性差別の内容が含まれない程度の「中立性」は、扶養家族の責任を担う男性像が、未だに政策の指向対象となっている現実を隠しています。外国籍配偶者向けの在留資格の交付条件もその例の一つです。

2015 年の冬から 2016 年の春にかけて、入国手続き専門の取次行政書士事務所二カ所において参与観察を行いました。更に、10 人以上の行政書士及び 2 人の元入国管理局の職員にインタビュー調査を行いました。